



航空自衛隊 防府南基地（山口県防府市）

ブルーインパルス(T-4)が描く「バーティカルキューピッド」の航跡



詳しくは、独立行政法人
駐留軍等労働者労務管理機構
ホームページ(QRコード)で
御覧頂けます。



目 次

- 2 防府南基地開庁記念行事 及び 防府航空祭
- 3 海上自衛隊 護衛艦「くまの」引渡式、自衛艦旗授与式
- 4 中国四国防衛局長感謝状贈呈
- 5 中国四国防衛局管内の防衛関連企業の視察
- 6 陸上自衛隊演習場における「米軍単独訓練」の実施
- 8 硫黄島における空母艦載機着陸訓練（FCLP）の概要
洋上における空母着陸資格取得訓練（CQ）の概要
- 9 米軍再編に係る航空機訓練移転の概要
岩国市英語交流センター「PLATABC」（山口県岩国市）
- 10 海上自衛隊 呉地方総監 御挨拶
航空自衛隊 航空教育隊司令 御挨拶
- 11 中国四国防衛局 新規採用者・退職者表彰の紹介
- 12 中国四国防衛局 調達部の紹介・職員日記（調達部）
- 14 在日米軍基地で勤務する従業員募集のお知らせ





防府南基地開庁記念行事 及び 防府航空祭

令和4年6月4日（土）、航空自衛隊防府南基地（山口県防府市）において「第66回防府南基地開庁記念行事」が、翌5日（日）には、航空自衛隊防府北基地及び陸上自衛隊防府分屯地（山口県防府市）において「防府航空祭～幸せます防府北～」が開催されました。

防府南基地航空教育隊においては、この春に採用された航空自衛隊の自衛官候補生及び一般空曹候補生に対し、基礎的な知識・技能を習得させるための教育訓練が行われています。

開庁記念行事では、約1200名の新隊員が、多くの家族や来賓が見守る中、威風堂々と観閲行進を行ったほか、航空自衛隊西部航空音楽隊（春日基地）が音楽演奏を披露しました。

また、同日昼頃には、翌日の航空祭の予行フライトのため「ブルーインパルス(T-4)」が飛来しました。隊員・家族は、ともに空を見上げ、その華麗な航跡を追っていました。



3年ぶりに行われた防府航空祭は、入場者数を1万人に限定し行われました。家族連れや多くの航空ファンの方は、雨の中、T-7練習機、C-1輸送機、CH-47大型ヘリ、ブルーインパルス(T-4)などの展示飛行に歓声を上げていました。また、地上展示されている航空機などの機内見学には長い列ができていました。



当局の尾崎防衛補佐官（1等海佐）は、会場内において多くの方々に声を掛けられ、記念写真に応じたり、就職を希望する青年の質問に答えました。



海上自衛隊 護衛艦「くまの」引渡式、自衛艦旗授与式

令和4年3月22日（火）、岡山県玉野市に所在する三菱重工業マリタイムシステムズ株式会社玉野本社工場（旧社名 三井E&S造船株式会社）において、護衛艦「くまの」の引渡式及び自衛艦旗授与式がとり行われました。

当日はあいにくの雨模様ではありましたが、鬼木防衛副大臣をはじめ、鈴木防衛装備庁長官、山村海上幕僚長、園田呉地方総監、今給黎中国四国防衛局長、三菱重工業株式会社阿部防衛・宇宙セグメント長、三菱重工業マリタイムシステムズ株式会社調枝社長他、製造関係者が多数出席し、式典が盛大にとり行われました。

引渡式

引渡式では、阿部防衛・宇宙セグメント長から「自衛艦引渡書」が鬼木防衛副大臣へ手渡され、続いて鬼木防衛副大臣から阿部防衛・宇宙セグメント長へ「受領書」が手渡されました。

この引渡式をもって、「くまの」は、三菱重工業株式会社から海上自衛隊へ正式に引き渡されました。



自衛艦旗授与式

引き続き行われた自衛艦旗授与式では、鬼木防衛副大臣から初代「くまの」艦長となる櫻井2等海佐へ「自衛艦旗」が授与されました。

自衛艦旗が授与されたのち、海上自衛隊呉音楽隊の吹奏に合わせて、自衛艦旗を捧持した副長を先頭に乗員が艦上に整列しました。その後、艦長が「くまの」へ乗艦し、鬼木防衛副大臣を艦上で迎えました。最後に、君が代の吹奏とともに自衛艦旗が艦尾旗竿に掲揚され、自衛艦旗授与式が滞りなく終了しました。



就 役

護衛艦「くまの」は、防衛省関係者及び造船所従業員に見送られ、玉野を出港しました。

「くまの」は、8艦建造予定の「もがみ」型護衛艦2番艦として、企画提案契約により建造された初の護衛艦であり、1番艦である「もがみ」の工程変更等のため、「もがみ」よりも先に就役することとなりました。海上自衛隊横須賀基地へ配属され、我が国の海上警備任務に就きます

「くまの」の特徴の一つに省人化があり、機能の一部を集約・自動化することで、乗員は従来に比べ半数（約90名）となっています。また、船体をコンパクト化し、レーダーに探知されやすい艦上構造物を極限まで排した船体構造によってステルス性を高め、対潜戦、対空戦、対水上戦、機雷掃海など様々な任務を完遂できるよう設計されています。



写真提供：海上自衛隊呉地方総監部



中国四国防衛局長感謝状贈呈

【ルイス前米海兵隊岩国航空基地司令官】

ルイス司令官（大佐）は、令和元年8月から本年6月までの間、約3年間にわたり、日本の防衛のみならず、地域の平和と安定にとって不可欠な存在である岩国航空基地の安定的な運用に尽力されるとともに、地元自治体との良好な関係を築きつつ、日米の友好及び同盟強化のために多大な貢献をされました。このことから、このたびの離任にあたり、令和4年5月12日、今給黎局長より謝意を表し感謝状を贈呈しました。

ルイス司令官は、歓談の場において、岩国市を始めとする周辺の方々の理解なくして、岩国航空基地の安定的運用をなし得なかったであろう旨謝意を述べられました。



前列左側がルイス大佐



感謝状贈呈後の歓談

【アイヴォリー前米陸軍第10支援群弾薬廠長】

アイヴォリー廠長（中佐）は、令和2年6月から本年6月までの間、約2年間にわたり、米陸軍弾薬庫及び通信施設を維持管理する重要な責務を担いつつ、呉市等の地元自治体と良好な関係を築き、日米の友好及び同盟強化のために多大な貢献をされました。このことから、このたびの離任にあたり、令和4年6月2日、今給黎局長より謝意を表し感謝状を贈呈しました。

アイヴォリー廠長は、広島での勤務が大変気に入られたようで、次の任地（沖縄）に赴いた後も、広島を再度訪れたいと述べられました。



アイヴォリー中佐への感謝状贈呈



前列左側がアイヴォリー中佐



中国四国防衛局管内の防衛関連企業の視察

防衛省・自衛隊の諸活動には多種多様な防衛装備品が不可欠です。各企業皆様の高度な技術、技能、品質管理に支えられていることは言うまでもありません。

当局調達部では、企業と調達契約した弾薬や戦車等の火砲、タービンエンジンや船舶などの防衛装備品が規定の性能を満足しているか、品質管理、製造コスト管理等が適正かなどについて監督・検査を行っています。

このたび、当局管内に所在する企業の御協力を得て、防衛装備品の製造過程の視察を行いました。視察状況及び企業の取り組みについて紹介します。

【中国化薬株式会社 江田島工場（広島県江田島市）】



中国化薬株式会社は、1947年（昭和22年）に創立され、産業火薬品の製造を行っています。

防衛火工品としては、各種火砲用弾薬、ロケット弾、誘導弾等の製造を行っています。



【ジャパン マリンユナイテッド株式会社 呉事業所（呉市）】



1889年（明治22年）呉鎮守府造船部発足以降、大型船の建造工場として多数の船舶建造を行い、自衛艦の修理なども行っています。



【株式会社 IHI 呉第二工場（広島県呉市）】

呉第二工場では、民航航空機や戦闘機のジェットエンジンの部品製造、大型艦船のガスタービンの部品製造などを行っています。

【株式会社 日本製鋼所広島製作所（広島県広島市）】

広島製作所は、1920年（大正9年）の創業以来、防衛装備の開発、製造を行っています。現在は、機関砲、戦車砲、りゅう弾砲、艦載砲など、多種の防衛機器の製造を行い防衛省に納入しています。

（広報誌55号において装備品の紹介をしています）



各防衛関連企業におかれては、品質はもとより、徹底した安全管理の下、日々更なる高度な技術向上を目指しているとのこと。我が国の平和と安全に貢献されている現場を視察できたことは、非常に有意義でした。

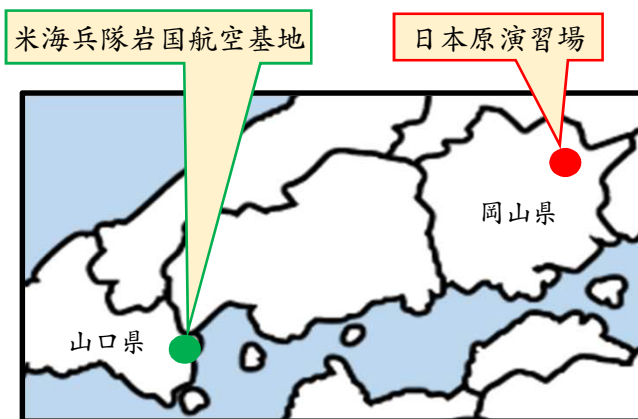
防衛省・自衛隊は、防衛装備品に関する企業及び勤務されている方々に支えられております。心より感謝と御礼を申し上げます。



陸上自衛隊日本原演習場における「米軍単独訓練」の実施

令和4年3月8日から15日の8日間、岡山県の陸上自衛隊日本原演習場において、米海兵隊岩国航空基地所属の後方支援部隊による単独訓練が実施されました。日本原演習場においては、平成30年10月に初めて単独訓練を実施して以来、4回目の単独訓練実施となります。

同部隊は、日本原駐屯地内のグラウンドに指揮所や宿管用テントなどからなる宿営所を設け、そこから演習場へ移動してヘリパッド敷設訓練、機関銃射撃訓練、一般訓練（パトロール訓練、車両の機動演習、障害物の設置演習）を実施しました。



【単独訓練の様子】



駐屯地内に宿営地を設営



駐屯地内に宿営地を設営（写真：米海兵隊提供）

米軍の到着後、海兵隊各部署の責任者に対し、陸上自衛隊から訓練にあたっての注意事項等の教育が行われ、訓練中も陸上自衛隊が状況を確認するなど、十分な安全管理のもと訓練が実施されました。

また、今回の訓練の実施においては、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、日米の訓練及び支援に参加する者はマスクの着用や日々の健康観察を行うなど、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、訓練を無事に終了することができました。



ヘリパッド敷設訓練



ヘリパッド敷設訓練

訓練期間中に当局が実施した対応として、前述の新型コロナウイルス感染対策のほか、地域住民の安全・安心を第一に、陸上自衛隊の協力を得て、日本原駐屯地内に現地連絡本部を設置し、24時間態勢で連絡員を配置し、地元自治体等との連絡調整、訓練期間中の演習場外周の車両による巡回、夜間の宿営地の巡回などを行いました。

訓練は、事件・事故等なく終了し、15日夕方、同部隊は岩国航空基地に帰還しました。



米軍車両を誘導する防衛局職員



巡回中の防衛局車両

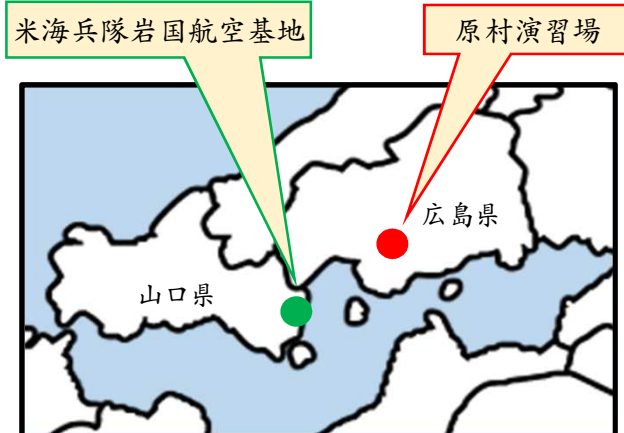


陸上自衛隊原村演習場における「米軍単独訓練」の実施

令和4年3月20日から26日までの7日間、広島県東広島市に所在する陸上自衛隊原村演習場において、米海兵隊岩国航空基地所属の後方支援部隊による単独訓練が実施されました。

本訓練は、平成3年8月に初めて実施されて以降、今回が50回目であり、演習場区域における一般訓練及び基本射場における小火器射撃訓練がそれぞれ実施されました。

本訓練実施にあたり、当局はこれまでと同様、訓練前においては、訓練実施期間及び内容等を関係自治体等へ通知し、訓練期間中においては、当局職員を連絡員として現地に派遣し、訓練状況を把握するなどの対応を行いました。また、当局の田實企画部長が演習場を訪問し、米側の部隊長の案内の下、訓練の状況を視察しました。



【単独訓練の様子】



一般訓練



一般訓練

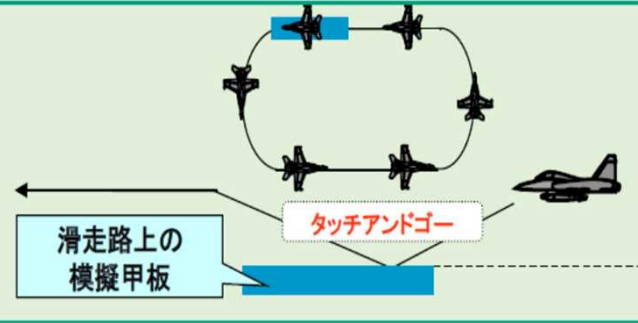
訓練部隊は、最大限の安全確保等を行うとともに、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、訓練を無事に終えました。

また、訓練終了後には、演習場周辺の一般道路を汚さないよう、使用車両の洗車等を徹底して行うなど細心の注意を払い、同部隊は岩国航空基地に帰還しました。

硫黄島における空母艦載機着陸訓練 (FCLP) の概要

空母艦載機着陸訓練 (FCLP)

FCLP実施イメージ図



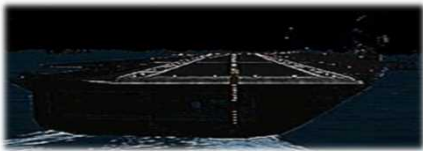
FCLP (Field-Carrier Landing Practice:空母艦載機着陸訓練)とは、空母出港前に必要な訓練であり、空母艦載機が空母に安全に着艦できるようパイロットの練度を維持するため、飛行場の滑走路の一部を、空母の甲板に見立てて実施する着陸訓練です。

平成3年から訓練の一部を硫黄島で開始し、平成5年度以降、同島において本格的な訓練が実施されており、1回当たり10日間程度で、訓練は日中から深夜にまで及びます。

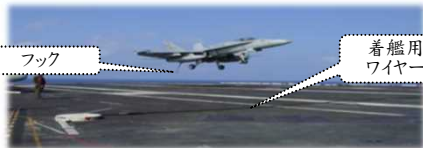
なお、令和4年度におけるFCLPは、5月6日から同月20日までの間、実施されました。

洋上における空母着陸資格取得訓練 (CQ) の概要

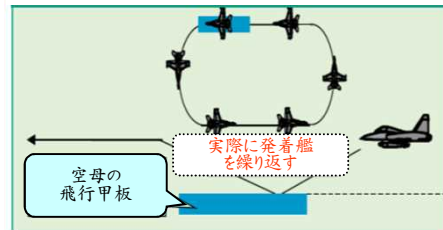
洋上における空母着艦資格取得訓練 (CQ)



夜の状態



着艦時



米軍の説明によれば、空母艦載機パイロットは、最後のFCLP実施後10日以内にCQを開始しなければならず、第5空母航空団所属のパイロットがCQを行うのに、4日間程度(昼と夜それぞれ)必要。

CQ (Carrier Qualification:空母着艦資格取得訓練)は、FCLP実施後10日以内に、洋上の空母に着艦することにより、空母への着艦資格を取得することを目的として、4日~6日程度で実施されています。

なお、令和4年度におけるCQは、5月21日から同月25日までの間、硫黄島付近の洋上の空母で実施されました。

米軍再編に係る航空機訓練移転の概要

米軍再編に係る航空機訓練移転については、「再編の実施のための日米ロードマップ（平成18年5月）」に基づき、二国間の相互運用性の向上と米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減するため、平成18年度以降、実施しています。

訓練移転元の米軍飛行場の嘉手納、岩国及び三沢飛行場から、訓練移転先の千歳、三沢、百里、小松、築城及び新田原の各自衛隊基地並びにグアム等への訓練移転を実施しており、岩国基地周辺における航空機騒音等の負担軽減に寄与しています。

米海兵隊岩国航空基地の所属部隊は、令和4年5月30日から6月17日までの間、グアム島のアンダーセン空軍基地において訓練を行いました。

岩国基地からの訓練移転実績（令和元年度～令和3年度）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
訓練移転先	百里			1回
	三沢	1回		
	グアム	4回	1回	5回
訓練移転回数		5回	1回	6回
訓練参加機数		74機程度	12機程度	78機程度



岩国市英語交流センター「PLAT ABC」(山口県岩国市)

令和4年3月26日、岩国市英語交流センターのオープニングセレモニーが、福田岩国市長、桑原市議会議員等の列席のもと行われました。



本施設は、英語の学びや学び直しの機会の充実を図り、国際交流活動を促進することにより、魅力的な「英語のまち」を実現させるため、その交流拠点として岩国市により整備されたものです。なお、本施設の愛称「PLAT ABC（プラット エービーシー）」は、公募により名付けられたものです。

本施設の整備にあたり、総事業費約1億7600万円のうち防衛省の再編交付金約1億7100万円が活用されました。中国四国防衛局としては、今後も防衛施設と周辺地域との調和が図られるよう、防衛施設周辺の皆様方の生活環境の改善のため、各種施策の実施に取り組んでまいります。

海上自衛隊 呉地方総監 伊藤 弘 海将 御挨拶



指導方針:「伝統の継承」
「変化への挑戦」

令和4年3月30付で第47代呉地方総監として着任した伊藤です。皆様方に置かれましては、常日頃から海上自衛隊の活動に関し、御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

歴史と伝統に溢れる呉の地において、勤務できますことを大変嬉しく感じているとともに、その重責に身の引き締まる思いです。

さて、海上自衛隊は、本年4月26日に創設70周年の節目を迎えました。私は、海上自衛隊の諸先輩がこれまで築いてこられた呉地方隊の輝かしい“伝統を継承”し、より素晴らしい組織として後進に繋ぐ所存です。

一方、我が国を取り巻く安全保障環境はこれまでにないスピードで変化しています。より素晴らしい組織として海上自衛隊が創設100周年を迎えるためには、現状に甘んじることなく、“変化への挑戦”を続けていくことが

重要であると強く感じております。引き続き、海上自衛隊の活動に対します御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。



(伊藤総監着任)



(呉地方総監部)



(呉海上花火大会)

呉地方総監部公式SNSは以下のQRコードでご覧いただけます。



H P



Twitter



Instagram

航空自衛隊 航空教育隊司令 右田 竜治 1等空佐 御挨拶



令和4年3月12日付で、航空自衛隊航空教育隊司令兼ねて防府南基地司令として着任しました右田です。

令和4年度、航空教育隊への入隊者は、自衛官候補生、一般空曹候補生併せて約2,300名（埼玉県熊谷基地第2教育群への入隊者も含む。）であり、日々教育訓練に励んでいるところです。

航空教育隊は、航空自衛隊で唯一、組織の主力かつ基盤となる曹士隊員の基本教育を担っており、今年度も我々航空教育隊隊員一同、新たに入隊した隊員に真摯に向き合い、隊員として必要な躰、教練、体育及び服務等に関する基礎的知識を習得させるため、日夜奮闘しております。

現在、我が国を取り巻く安全保障環境は厳しさと不確実性を増しており、航空自衛隊はこれまでどおりに任務、役割を果たすとともに、真に機能する航空自衛隊として「進化」し続けていかなければなりません。その様な中で航空教育隊及び防府南基地に課せられる任務は極めて重要であり、全力で職務に邁進するとともに、地域の皆様とともに着実に歩んで行く所存です。今後とも、御理解と御支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。



入隊式
(一般空曹候補生)



課程教育
(武器貸与式)



地域行事協力
(防府読売マラソン)



防府南基地
ホームページ



中国四国防衛局 新規採用者の紹介(令和4年4月1日付)

令和4年4月1日、桜が咲き乱れる晴れやかな日に当局に新規採用者13名が仲間入りしました。

社会人経験者3名を含む今年度の新規採用者は、岸防衛大臣からの訓示や今給黎局長からの言葉を受け、改めて防衛省職員としての責務を自覚し、引き締まった表情で、式を終えることができました。



昨年度の就職活動を含め、先行きが不確定な状況の中、入省した13名ですが、職場の上司からの指導や防衛施設周辺地域の方々からの御意見をいただきながら、さらにたくましく、人間的に大きく成長することを期待しております。



中国四国防衛局 退職者表彰(令和4年3月31日付)



令和4年3月31日、永年にわたり防衛省に勤務し、定年を迎えられた5名の職員に対し、積年の労苦に感謝するため、局長表彰を授与しました。

今回の退職者は、在職期間中、岩国飛行場滑走路沖合移設事業、在日米軍の再編等、幾多の困難な事案について、その卓越した識見と豊富な経験を活かし、多大な貢献をされてこられました。そのマインドは私たち後輩職員が大事に引き継いでまいります。

(後列中央左より)

行徳 賢治 (岩国防衛事務所付) ※
森下 和美 (企画部施設管理課係長)

(前列左より)

大谷 文晴 (調達部事業監理課長)
胡田 尚弥 (企画部施設取得課長) ※
大下 利則 (津山防衛事務所長) ※

※印は、4月1日以降、当局にて再任用





中国四国防衛局 調達部の紹介

調達部は、中国5県及び四国4県に所在する防衛施設の建設に関する調整や監督・検査などを行う調達計画課、事業監理課、建築課、土木課、設備課と防衛装備品の調達に関する監督・検査などを行う装備課の計6課からなっています。

調達部では、防衛施設の整備や防衛装備品の調達などの防衛力整備を担っており、日々建設・製造現場で知識や経験等を積み重ね、我が国の質の高い防衛力整備につとめています。

◆ 防衛施設の整備に関する業務

実施計画の立案・調整等

調達計画課では、施設のユーザーである自衛隊や在日米軍等と綿密な協議・調整を行い、施設の建設工事に係る実施計画の立案や関係自治体との調整業務などを行っています。



調整会議風景



設計会議風景

設計・調査

建築・土木・設備の各課では、ユーザーが求める機能を満足し、より良い施設を整備するべく、細部調整や専門的知見から提案を行うなどして、工事図面等を作成します。

建設工事

作成した図面に基づく建設企業との契約締結後、建築・土木・設備の各課では、適正に建設工事が遂行されているか、定期的に現場に赴き、品質や出来高等の確認など工事監督を行います。特に重要な事業では、事業監理課が事業全体のプロジェクトマネジメントを行います。



完成検査風景

完成・引渡し

防衛施設の工事が完成すると、事業監理課の検査官が、防衛施設の性能並びに品質を満たしているか完成検査を行い、その後ユーザーに引渡します。



工事監督官現場確認風景

◆ 防衛装備品の調達に関する業務

装備課では、防衛装備庁等が企業と調達契約した弾薬や戦車等の火砲、タービンエンジンや船舶などの防衛装備品について、規定の性能を満足しているか、品質管理、製造コスト管理等が適正かなど監督・検査を行います。



検査風景

調達部では、質の高い防衛力整備のため、防衛施設の整備や防衛装備品の調達を行っています。業務を通じて、最新の技術知見や豊富な監督経験などを得ることができ、プロとして高い専門性を身につけられるのが醍醐味です。

また、ベテランと若手が一丸となりチームとして業務に取り組んでおり、携わった施設や装備品が完成した時、一つのプロジェクトを成し遂げたという一体感や達成感や得られ、大変誇りを感じられる職場です。



中国四国防衛局 職員日記(調達部)

私は、平成8年度に広島防衛施設局(当時)に入庁して以来、防衛施設庁、熊本防衛支局、九州防衛局、近畿中部防衛局において建設工事に係る業務に携わり、現在は、調達部調達計画課において計画調整の業務を行っています。

かつて世間一般では、地方防衛局における自衛隊や米軍施設の施設整備を担っている調達部の認知度が低いと感じられていましたが、近年は、大規模な米軍再編事業等の整備等により地方防衛局における調達部の認知度が上がっており、業務にやりがいを感じながら、日々業務に取り組んでいます。

調達計画課内では、陸・海・空の各自衛隊などの活動に必要な施設建設のための窓口となり、各自衛隊などとの連絡調整や、地方公共団体、地域住民の皆様へ建設工事のご理解をいただくための業務を行っています。



(調達計画課 石原 健司)

私は、広島県生まれで、これまでの間、幸いにも出身地で多く勤務できていることに感謝しており、これからも、地域住民の皆様が安心出来る自衛隊施設を建設できるように、日々努力を続けていきたいと思えます。



中国四国防衛局 企画部の組織変更について

令和4年4月1日、企画部の組織を改編し、地方調整課に「環境対策室」を、施設管理課に「施設企画室」が設置されました。これにより、企画部は6課4室となりました。

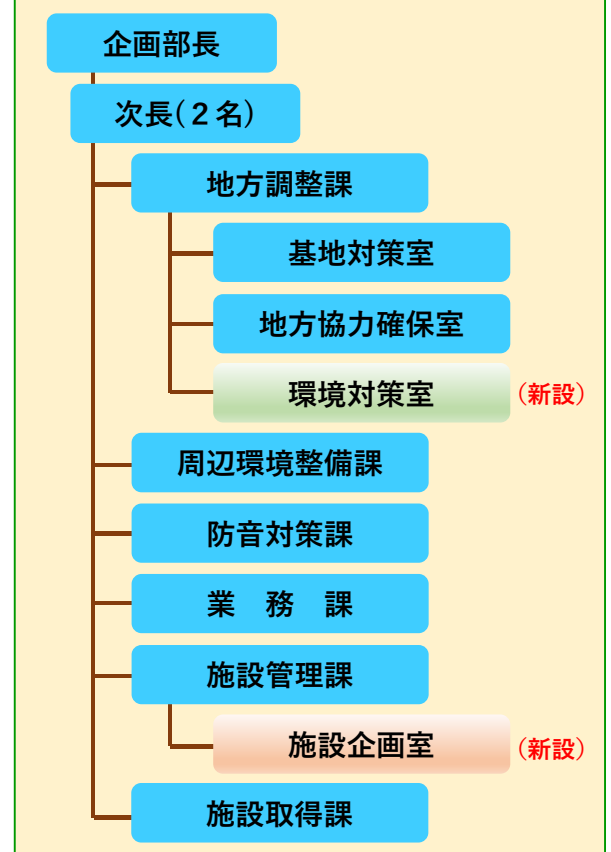
環境対策室は、

1. 自衛隊の施設並びに駐留軍の使用に供する施設及び区域の設置又は運用により生ずる環境問題についての調査及び研究並びに当該環境問題に対する施策の企画及び立案に関すること
 2. 自衛隊の施設並びに駐留軍の使用に供する施設及び区域並びにその周辺地域における環境の保全についての駐留軍、利害関係人又は関係行政機関との連絡及び交渉並びにそれらの間の意見の調整に関すること
 3. 環境の保全に関する技術に係る事項及び諸制度についての調査及び研究に関すること
- を所掌としております。

施設企画室は、

1. 自衛隊の施設に供される行政財産及び民公有財産の管理に伴い生ずる諸問題についての調査及び研究に関すること
 2. 駐留軍の使用に供する施設及び区域の提供並びに駐留軍に提供した施設及び区域の返還に伴い生ずる諸問題についての調査及び研究に関すること
 3. 前2号の諸問題に対する施策の企画及び立案に関すること
- を所掌としております。

企画部 (令和4年4月1日)





中国四国防衛局 職員採用活動に関するご紹介



当局では、広報活動の一環として、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験）（行政・デジ電電・機械・土木・建築）及び国家公務員採用一般職試験（高卒程度試験）（一般事務・技術）の受験を考えている方に向けて、業務セミナー・職場見学会等を行っております。



さらに、技術系の学校に対しては、当局の業務をより知って頂くために、現地での業務説明会の開催を積極的に提案しております。また、業務状況を肌で感じて頂くため、現場説明会においては、防衛施設に係る建設工事現場を実際に見て頂くことや、各種学校とインターンシップ協定を締結し、学生が職場の雰囲気を感じながら実務経験を積んで頂くことなど、より深く知って頂くための取組みをしております。興味のある方は、当局のホームページをご覧ください。

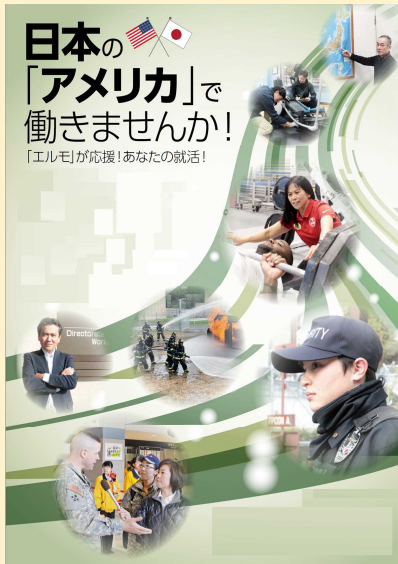


（採用情報）

中国四国防衛局ホームページ



在日米軍基地で勤務する従業員募集のお知らせ



日本の「アメリカ」で働きませんか！
「エルモ」が応援！あなたの就活！

独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構【エルモ】では、在日米軍基地で勤務する従業員の募集を行っています。

求人情報提供メールサービスに登録すると、希望する求人情報がホームページに掲載される都度、お知らせメールが送信されますので御利用下さい。

【Twitter】

令和3年4月より、求人情報等の募集関連情報を定期的に発信しています。ぜひ、フォローをお願いします。

アカウント名

「在日米軍従業員求人情報（エルモ）@LMO_recruit」

Twitter



<https://www.lmo.go.jp>

LMO

検索

【窓口応募受付・お問い合わせ先】

■ 岩国支部管理課管理係

住所：岩国市中津町2-15-35

電話：0827-21-1271

担当施設：岩国飛行場

■ 岩国支部呉分室

住所：呉市中央1-6-9センタービル呉駅前

電話：0823-32-7087

担当施設：広島県内の在日米軍施設

エルモホーム
ページ



求人情報
本州・九州の基地

